

テーマ「将来の職業を考える」

このメモは、大の中学校の同級生が千葉市立の小学校で6年生の担任をしており、その友達から大に「将来の職業を考える」という授業のなかでボクシングについて話して欲しい、と依頼があり小学校に出かけて行って話をしました。大が帰宅したあと APA ホテル・東京ベイ幕張の1階にあるビュッフェレストラン ラ・ベランダで一緒に昼食を摂りながら聞いた内容です。

2014年11月10日、千葉市立高洲第1小学校6年生の生徒数は約65名で1コマ45分間の授業でした。授業に先立ち、校長室で教頭先生と学年主任と大の話し合いがあり、お金を儲けるだけの職業という視点からの話は避けてほしい、と依頼を受けたといいます。それに対して大は、ボクシングはお金が稼げる職業ではなく、好きだからこそアルバイトをしながら続けているスポーツであり、自分が納得するまでボクシングを続けていきたいと思う、と話し、そういう視点からボクシングについて子どもたちに話していきたいと答えたとのこと。ボクシングをやったことによって一番変わったことは物事に対してポジティブに考えられるようになり行動に積極性が出るようになった。また、これまで育ててくれたのは両親を含めた周りの人たちであり、その人たちに対する感謝の気持ちを持てるようになった。その心があれば人としての道を誤ることはないと思う、と話したとのこと。また、大は小学校高学年の頃に学校にやって来て話してくれた人や話の内容をよく覚えているので、自分も今回のような機会を通して子どもたちの心に残るような人間になっていきたいと思う、と話したとのこと。このことを聞いた学年主任がボクサーからそのような言葉を聞くとは思わなかった、との感想を漏らしたようです。

実際に授業で話した内容は、ボクシングを職業と考えたことは一度もないし、このスポーツは過酷なトレーニングが必要であり、年齢的なこともあるので将来も続けていくことはできない。ボクシングをしていて練習がきついかか苦しいと思ったことはあるが、一度たりとも辞めようと思ったことはない。ボクシングだけでは生活が出来ないので、アルバイトとしてラーメン屋で働いているが、ラーメン屋も好きだけれどずっと続けていくつもりはない。その時点で自分の気持ちに正直に一番好きなことを続けていくことが重要なことなのではないかと思う、という内容を話したそうです。話し始めて10分くらいは子どもたちの反応もイマイチでしたが、話し方が大からの一方的なものから子どもたちとのやり取りが始まった以降は子どもたちもリラックスして笑いが度々起こるようになってきたそうです。大が子ども一人に「今、一番好きな事は何か？」と問いかけると、「ゲームをするのが一番好きで、妖怪ウォッチが一番好きです。」との答えが返ってきたので、それに対して「だったら、妖怪ウォッチのように面白いゲームを考え出すプログラマーっていう仕事はどうだろうか？」と話を向けると「それ最高！そういう仕事がしたい。」という返事だった、とのこと。

質問コーナーも用意されていたので、質問した子どもには10本用意して行った応援団扇をあげるからと言った途端に、子どもたちは次々に手を挙げチャイムが鳴っても質問が途絶えることはなかったようです。大はアドリブが得意なので、子どもたちとのやり取りを通して子どもたちの中に入っていくという方法が楽しかったという感想を述べていました。大は23歳の時に獲得したWBCユースシルバー

チャンピオンベルトを持参する予定でしたが、朝、ベッドの上に置いたままバックに入れるのを忘れて学校に出かけてしまったとのこと。担任が大を元 23 才以下の世界チャンピオンと紹介したようですが、チャンピオンベルトがあれば子どもたちの反応もまた一段と違ったことになったでしょう。

授業終了後、教頭先生、学年主任、担任と大との間で簡単な話し合いを持ちましたが、いずれの先生も今回はとても良い授業だったと褒めていたとのことでした。現役のプロボクサーが公立学校の授業に登場することは滅多にないでしょうし、これも大の経験のひとつとしてこれからの人生に役立っていければいいのかなと思います。